

# フナの種苗生産

種苗開発部 部長 今村昭則

目的：県内の河川では資源維持のためにアユやウナギなどが放流されています。これまでコイも放流されていましたが、近年、コイ特有の疾病であるコイヘルペスウイルス病が県内の複数の河川で発生し、コイに替わる魚としてフナの放流要望があることから、フナの種苗生産を行っています。

ギンブナ



フナ

- ・コイに似るが、ひげはない。
- ・フナと呼ばれているものには、キンブナ、オオキンブナ、ギンブナ、ニゴロブナ、ゲンゴロウブナなどがある。
- ・本県の河川、湖沼に多いのはギンブナである。

産卵用の疑似水草（キンラン）



雌のフナ

雄のコイ

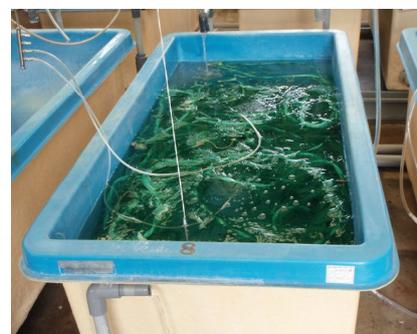
## ギンブナの種苗生産

- ・ギンブナは大半が雌で、雌だけで発生する。
- ・採卵は、雌のフナと雄のコイを産卵池に收容し、産卵させる。
- ・コイの精子は、卵の発生の刺激となるだけ。
- ・産卵期は4～6月
- ・産卵は明け方を中心に水面で行われる。

ふ化後3日目の稚魚



ふ化前の卵



卵が産み付けられたキンランを收容



餌となるミジンコを繁殖させた稚魚養成池



成長したフナの稚魚